

6 - 1 中国東部・近畿北部・北陸地域における地震活動 (1982年7月～1982年12月)

Seismicity in the Eastern Chugoku, Northern Kinki and Hokuriku Districts,
Southwest Japan (July, 1982 - December, 1982)

京都大学防災研究所・鳥取微小地震観測所

北陸微小地震観測所

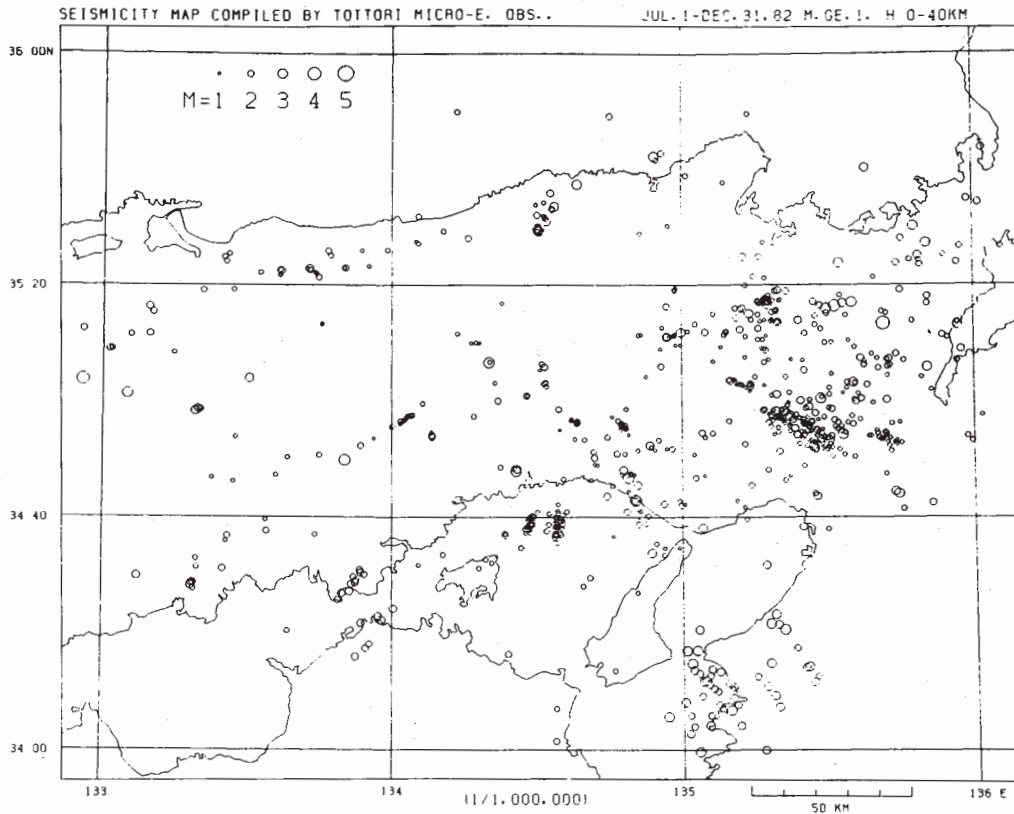
京都大学理学部・阿武山地震観測所

Tottori Microearthquake Observatory and Hokuriku Microearthquake Observatory
Disaster Prevention Research Institute
Abuyama Seismological Observatory Faculty of Science, Kyoto University

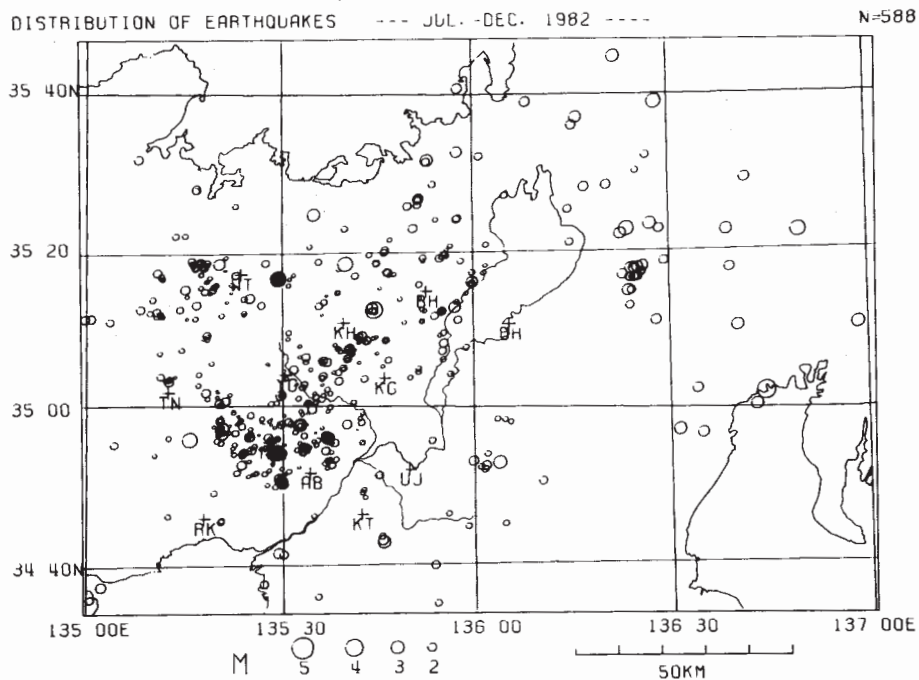
第1図に鳥取観測網の結果を示す。この期間は、山崎断層に沿う活動、兵庫県北部の $134^{\circ} 30' E$, $35^{\circ} 35' N$ 付近の活動、鳥取県の日本海岸沿いの活動などが見られるが、全体として活動は低調であった。

第2図に阿武山観測網の結果を示す。武庫川上流の $34^{\circ} 56' N$, $135^{\circ} 16' E$ に起ったM3.4の地震は、典型的な aseismic area で起ったといえる。この地域には昭和50年以來1度も地震が起っていない。和知地域では三峠断層沿いの活動が活発であったが、この期間は、それと共役の方向への広がりが見られた。和知(WT)の東約10kmでは、M3.6を最大とする10個の群発地震がほぼ同じ場所で発生した。この期間で最も大きい地震は、京北(KH)の北東8kmで起ったM3.9の地震であった。

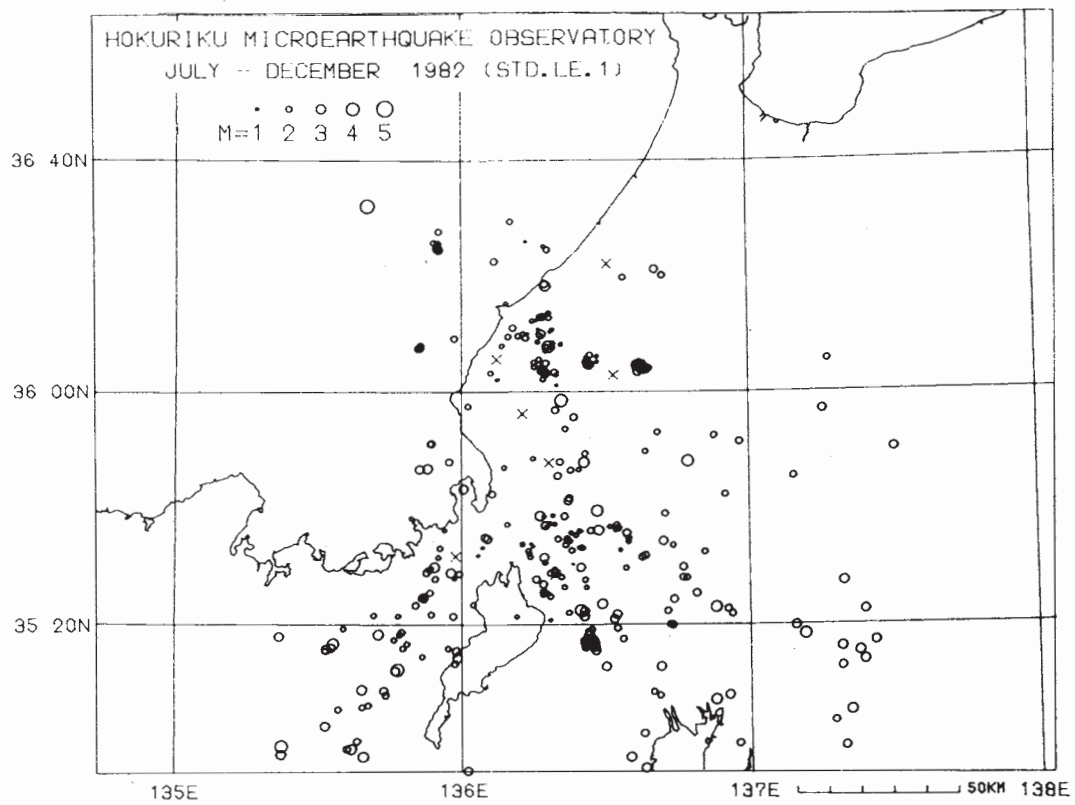
第3図に北陸観測網の結果を示す。全体的に、福井地震断層、養老断層、琵琶湖北東部で地震活動が活発であった。越前岬の沖合約50kmに起ったM4.3の地震は、昭和51年以來地震の起らなかった地域に起ったものである。赤兎山に再び群発地震が発生した、これについては、本号で別に述べてある。養老断層に関連する地震が多数発生した。この地域は従来活動度の高い地域であるが、今回のようにまとまって発生したのは珍しい。



第 1 図 鳥取微小地震観測所による震央分布図 (1982 年 7 月 ~ 1982 年 12 月)
 Fig. 1 Seismicity map by the Tottori Microearthquake Observatory (July, 1982 - December, 1982).



第 2 図 阿武山地震観測所による震央分布図 (1982 年 7 月 ~ 1982 年 12 月)
 Fig. 2 Seismicity map by the Abuyama Seismological Observatory (July, 1982 - December, 1982).



第3図 北陸微小地震観測所による震央分布図（1982年7月～1982年12月）

Fig. 3 Seismicity map by the Hokuriku Microearthquake Observatory (July, 1982 - December, 1982).